

Ⅱ 業種別産業の動向

1 農林業

(1) 農林業の概要

農業は、安全で安心な食糧を国民に供給する重要な産業である。しかし、海外からの安価な農作物の流入に加え、就業人口の減少と高齢化、後継者不足、兼業化の進行、経営規模の縮小、都市化の進展による生産環境の悪化等、特に都市部で経営を取り巻く環境が厳しさを増している。さらに、無農薬野菜等といった、より安全で良質な農産物へのニーズも高まっている。

このような課題やニーズに対応するため、生産面では、より高度な技術の普及、消費者ニーズに合う新しい品目や分野の開拓、経営コストの低減等を総合的に進める必要がある。近年取組が進められている植物工場は、季節や天候に左右されない計画的な生産による価格の安定、加工・業務用需要への対応のほか、高度な環境制御技術、適正な品種、低コスト部材・資材、省エネルギー化など、技術開発や高度化による施設園芸全体のボトムアップを目的としている。農業に商工業の技術やノウハウを活用し産業間の連携を促進することで、地域の雇用・所得の向上や地域の遊休施設の利活用、地産地消の推進など地域経済の活性化につながると期待されている。

また、農作物の生産だけでなく、加工、販売までを一体的に手掛ける農業の6次産業化への取組も進められている。

林業は、住宅や建築物の資材となる木材を供給する産業である。加えて、森林の持つ水源涵養や土砂災害防止・土壌保全、二酸化炭素吸収などの地球環境保全といった多面的な機能は、国民の安心安全な生活を守る上で極めて重要である。しかし、木材自給率の低下と価格の低迷、林業就業者の減少や高齢化、放置森林の増加といった多くの問題を抱えており、森林の持つ多面的機能を維持増進するとともに、

持続可能な林業収益の確保、市域産材の利用促進、林業の担い手育成等を図り、本市林業を活性化することが大きな課題となっている。

さらに、市民や企業等の参画による森づくりを推進し、循環利用される森や山、また様々な生き物がいる歩いて楽しい森林など、手入れされた森林の役割が社会で認められるようにすることも重要な課題である。

このように多くの課題はあるが、豊かさやゆとりのある生活を求めて農林業の体験希望者が増えつつあり、土や自然との触れ合いを求める市民が増加している。また、職業としての農林業への期待や、地球温暖化防止などに対する森林への期待も高まっている。市域面積の7割以上を占める農地と森林を生かし、産業としての魅力ある農林業や、環境や社会の貢献できる農林業など、農林業を市民と一体となって展開していくことがより一層必要になっている。

今後、経済のグローバル化の進展で農林業も更なる海外との競争にさらされることになる。生産物のブランド化や効率的な流通方法の確立など、競争力を高めるための方策が求められている。

(2) 農業

① 農家、農地の状況

京都市では、古く都であったこと、大都市近郊という地の利、地味の良さ等から多くの良質な農産物が生産され、伝統的に活発な農業が行われている。

平成 23 年度京都市農林統計資料によると、農家戸数は 7,169 戸で、うち専業農家が 952 戸（構成比 13.3%）、農業を主とする兼業農家が 1,242 戸（同 17.3%）、農業を従とする兼業農家が 4,975 戸（同 69.4%）である。〔表Ⅱ-1-2-1、図Ⅱ-1-2-1〕

農家人口は 31,316 人で、男女別に見ると男性 14,732 人、女性 16,584 人となっている。〔表Ⅱ-1-2-2、図Ⅱ-1-2-2〕

耕地面積は 3,206.7ha で、田が 2,421.4ha と全体の 75.5%を占めている。〔表Ⅱ-1-2-3、図Ⅱ-1-2-3〕

平成 17 年度に旧京北町地域が市域に編入されたため、平成 17 年度は農家戸数、農家人口及び耕地面積は大きく増加したが、それ以降は農家戸数、農家人口、耕地面積はいずれも緩やかな減少傾向にある。

表Ⅱ-1-2-1 農家戸数の推移

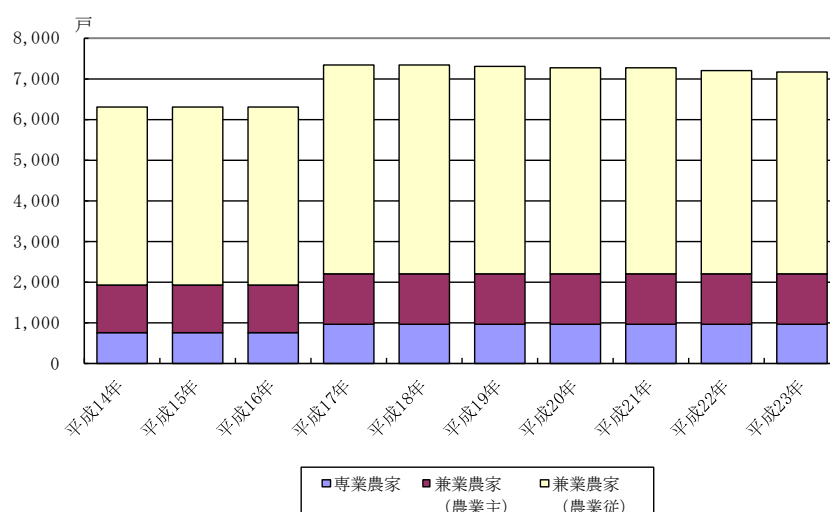
（単位：戸）

	専業農家	兼業農家 （農業主）	兼業農家 （農業従）	総農家戸数
平成 14 年	750	1,155	4,392	6,297
平成 15 年	751	1,154	4,388	6,293
平成 16 年	750	1,152	4,383	6,285
平成 17 年	960	1,244	5,125	7,329
平成 18 年	954	1,242	5,117	7,313
平成 19 年	956	1,243	5,096	7,295
平成 20 年	950	1,241	5,083	7,274
平成 21 年	951	1,241	5,056	7,248
平成 22 年	952	1,241	5,012	7,205
平成 23 年	952	1,242	4,975	7,169

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-1 農家戸数の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-2 農家人口の推移

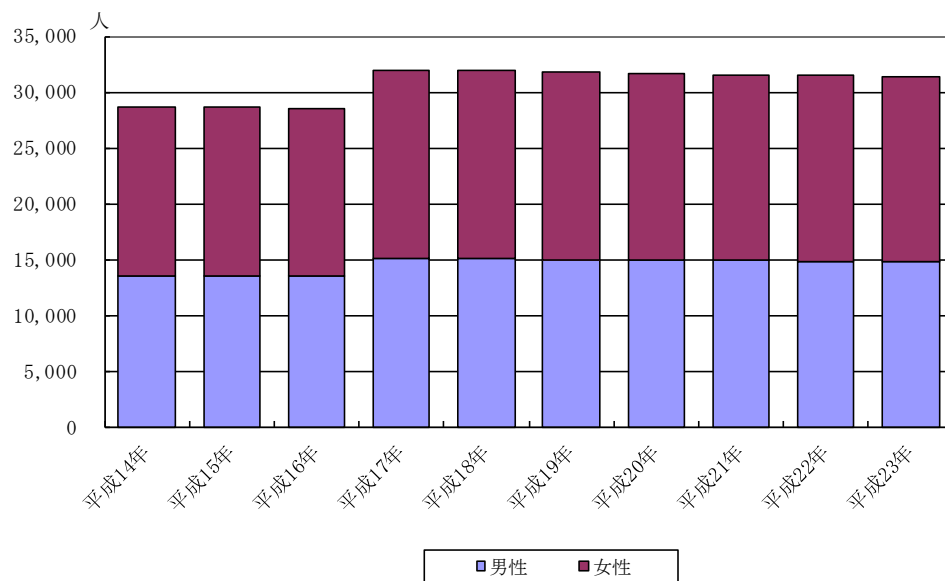
(単位：人)

	男 性	女 性	総 計
平 成 14 年	13,507	15,113	28,620
平 成 15 年	13,499	15,104	28,603
平 成 16 年	13,450	15,079	28,529
平 成 17 年	15,102	16,896	31,998
平 成 18 年	15,014	16,850	31,864
平 成 19 年	14,966	16,796	31,762
平 成 20 年	14,908	16,763	31,671
平 成 21 年	14,867	16,701	31,568
平 成 22 年	14,824	16,646	31,470
平 成 23 年	14,732	16,584	31,316

※平成17年4月1日の京北町との合併により，平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-2 農家人口の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により，平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-3 耕地面積の推移

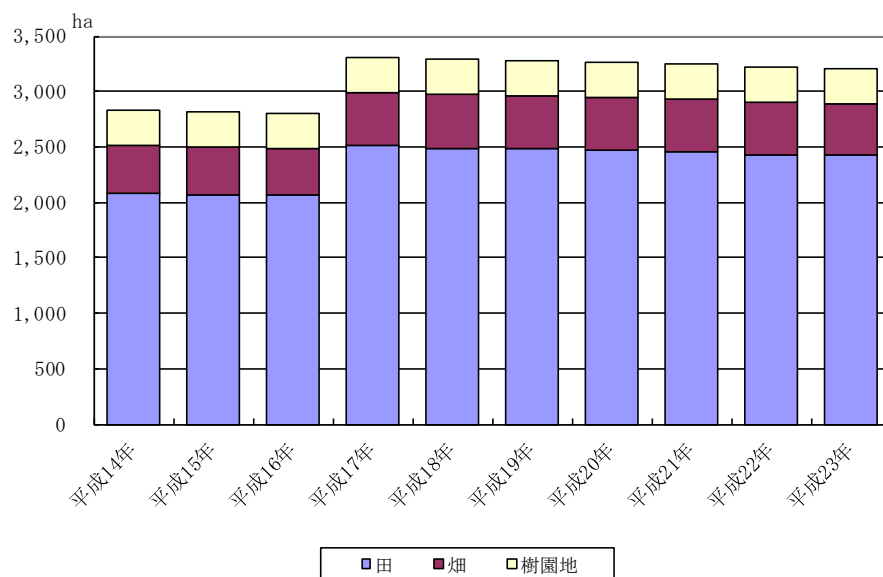
(単位：ha)

	田	畑	樹園地	合計
平成14年	2,087.0	424.3	322.6	2,833.9
平成15年	2,073.2	425.3	321.5	2,820.0
平成16年	2,061.7	424.7	318.9	2,805.3
平成17年	2,510.0	483.6	318.3	3,311.9
平成18年	2,488.5	480.3	320.2	3,289.0
平成19年	2,477.4	482.8	318.7	3,278.9
平成20年	2,468.8	479.8	319.7	3,268.3
平成21年	2,449.8	474.7	319.7	3,244.2
平成22年	2,433.6	471.9	318.3	3,223.8
平成23年	2,421.4	467.2	318.1	3,206.7

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-3 耕地面積の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

② 農業産出額

京都市では、古くから都への献上等の形で持ち込まれた多種多様な野菜が栽培され、その長い歴史と伝統の中で「京野菜」として結実し、現在に継承されている。

平成18年農林水産統計（近畿農政局）によると、京都市は、京都府内最大の野菜生産地であり、府内の野菜生産額の40.7%を占めている。

京都市で生産される農作物のうち、生産額が一番多いのは野菜の101億1千万円で、耕種作物全体の82.3%を占めている。また、花きも、府内で最大の産出額となっている〔表Ⅱ-1-2-4〕。

表Ⅱ-1-2-4 農業（耕種作物）産出額

（単位：京都府 億円，市郡 千万円）

平成18年	米	麦類	雑穀・豆類	いも類	野菜	果実	花き	工芸農作物	種苗木・その他	耕種作物合計
京都市	143	-	1	14	1,011	27	29	0	2	1,228
福知山市	202	1	19	7	86	16	1	4	2	337
舞鶴市	77	-	4	4	72	5	3	3	2	171
綾部市	163	1	9	4	39	7	0	8	1	231
宇治市	27	-	-	1	152	1	8	31	1	221
宮津市	45	-	2	2	45	4	9	0	3	110
亀岡市	213	2	3	5	86	2	10	0	-	320
城陽市	24	-	0	6	23	20	25	23	1	122
向日市	8	-	-	1	43	0	15	-	2	69
長岡京市	9	-	0	1	61	0	5	-	-	76
八幡市	34	-	0	1	96	4	7	15	0	156
京田辺市	51	-	1	2	82	1	9	25	1	172
京丹後市	331	-	32	17	172	74	7	20	25	677
南丹市	184	1	9	5	83	3	5	0	0	292
大山崎町	2	-	-	0	5	-	4	-	-	11
久御山町	30	X	-	X	155	1	20	1	57	263
井手町	9	-	0	X	12	5	1	4	X	33
宇治田原町	16	X	0	1	12	1	X	50	X	82
山城町	16	-	0	1	79	5	2	9	0	112
木津町	30	-	0	3	32	8	2	-	0	74
加茂町	30	-	0	2	17	3	2	19	2	74
笠置町	3	-	-	X	1	X	-	2	-	5
和束町	16	-	0	0	5	0	-	161	3	186
精華町	29	-	1	2	25	1	6	-	0	63
南山城村	13	-	-	0	4	X	X	90	3	112
京丹波町	101	-	15	3	35	5	0	0	4	164
伊根町	17	-	1	1	11	0	0	-	1	32
与謝野町	83	-	4	4	38	1	0	0	1	130

資料：近畿農政局「農林水産統計（平成18年）」

注：「0」は単位未満，「-」は該当数値なし又は皆無，「X」は数値が秘匿されているものを表す。

③ 代表的な京の伝統野菜

【賀茂なす】

貞享元年（1684 年）の文献に記載があり、古くは現在の左京区吉田田中地区で栽培されていたが、今から約 100 年前に北区上賀茂、西賀茂及びその付近で、大型なす特産品種として栽培されるようになったようであるが、起源については明らかでない。

【聖護院だいこん】

文政年間（1816 年～1830 年）に、現在の左京区聖護院に住む農家が尾張の国から黒谷の金戒光明寺に奉納された大根を譲り受けて栽培し、採種を続けるうちに生まれた短形のものが土地に合い、品質の良い聖護院だいこんになったようである。

【堀川ごぼう】

聚楽第の堀跡へ捨てられたゴミの中にあったごぼうが越年し、大きく育ったことから越年ごぼう（堀川ごぼう）の栽培が始められたと言われており、この独特の栽培方法は、約 400 年の歴史を有する。

【九条ねぎ】

現在の伏見区深草の地で、和銅 4 年（711 年）に稻荷神社が建立された時に栽培が始まったとされ、歴史は古い。承和年代（834 年～848 年）には既に、九条で栽培されていたようである。

【みず菜】

京都で栽培されてきた野菜の中で、長い栽培の歴史を持つものの一つで、和名抄（935 年ごろ）に「みずな」の名が始めて記載されている。更に、天和 3 年（1683 年）に供物として用いたことが、また、貞享 3 年（1686 年）に東寺九条周辺で栽培されていた記載がある。

【京せり】

承和 5 年（838 年）の文献に、せりの栽培が記載されており、湧水がある低湿地を利用して、広く栽培された。現在のような湧水栽培が行われたのは、約 300 年前といわれている。

【京たけのこ】

嵯峨天皇の時代（810～823）に長岡京市の海印寺寂照院の開祖である道雄が、中国から孟宗竹を持ち帰り、関西に広まったといわれているが、その当時食料として利用したかどうかは不明である。その後江戸時代に西山一帯に定着して栽培の対象となったという説が正しいとされる。特に西山地域で生産されるものは、栽培技術に支えられ、全国的に最も品質が優れているといわれている。

【えびいも】

安永年間（1772～1781）に当時の青蓮院宮が、九州の長崎から芋の種を持ち帰られ、宮家に仕えていた御料菊や野菜を栽培する御用を承っていた者が、栽培を託された。大きく良質のものができたので、形状から「えびいも」と名付けられて、上鳥羽、九条で栽培されたようである。

京都市では、北山磨丸太に代表される高度な技術に支えられた林業が行われてきた。

経営形態別では、個人が 76.6%と最も多く、次いで会社が 6.0%、慣行共有（民法上の入会権、地方自治法上の旧慣使用権によって使用収益している山林などを保有する集団の総称）が 4.6%と続く。私有林は全体の 94.8%を占めている。〔表Ⅱ－1－3－1、図Ⅱ－1－3－1〕

(単位: ha)

生産森林組合
森と緑の公社
緑資源機構
慣行共有
社寺
会社
その他
財産区
京都府
京都市
画対象外森林等
国有林
個人

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

(単位：戸)

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

(4) 畜産業

平成 23 年度京都市農林統計資料によると、平成 23 年 2 月現在の京都市の家畜飼養戸数及び頭羽数は、乳牛が 3 戸、47 頭、肉用牛が 5 戸、58 頭、馬が 11 戸、158 頭、豚が 2 戸、44 頭、山羊が 7 戸、37 頭、綿羊が 6 戸、23 頭、鶏が 28 戸、17,249 羽、みつばちが 32 戸、287 群である。

京都市の畜産物の自給率（平成 21 年）は、肉類が 0.2%、牛乳が 0.5%、鶏卵が 1.0%である。畜産物価格の低迷や将来性に対する不安、後継者難等で、乳牛や肉用牛、馬などの飼養戸数は減少傾向にある。

平成 21 年の市内における畜産生産額は、牛肉が 1,737 万円、豚肉が 402 万円、牛乳が 3,421 万円、鶏卵が 3,943 万円、鶏肉が 273 万円である。前年比では、鶏肉、牛乳が増加し、牛肉、豚肉、鶏卵は低下した。生産額の総計は、前年比で 9.9%減少し 9,777 万円となっている。〔表Ⅱ－1－4－1、図Ⅱ－1－4－1〕

畜産農家の 30.0%は市街化区域内に存在しており、市民生活における環境問題との調和を図るため、畜産環境の衛生的改善を目的とした巡回指導を行っている。

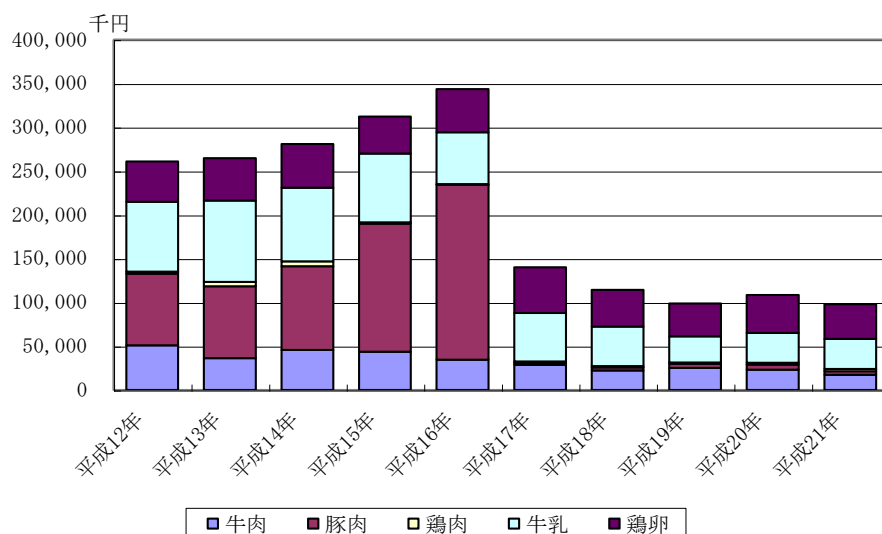
表Ⅱ－1－4－1 畜産物生産額の推移

(単位：千円)

	牛 肉	豚 肉	鶏 肉	牛 乳	鶏 卵	合 計
平 成 12 年	50,999	81,689	2,464	79,770	45,826	260,748
平 成 13 年	36,223	82,113	4,904	92,961	48,358	264,559
平 成 14 年	45,819	95,510	5,393	84,160	49,735	280,617
平 成 15 年	43,526	146,255	1,630	78,590	42,148	312,149
平 成 16 年	34,482	199,584	1,072	59,048	49,266	343,452
平 成 17 年	28,702	2,341	1,455	55,319	52,166	139,983
平 成 18 年	22,317	3,510	1,289	45,374	41,703	114,193
平 成 19 年	25,262	4,498	1,670	29,957	37,432	98,819
平 成 20 年	23,009	5,866	2,182	33,935	43,532	108,524
平 成 21 年	17,373	4,019	2,739	34,211	39,429	97,771

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ－1－4－1 畜産物生産額の推移



資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

(5) 主要農林産物の生産状況

◆ 水稻

稲作は、農業振興地域における農業生産の中心となっている。主食である「米」は、近年の状況から、高品質化とともに、より一層の生産性の効率化と低コスト化が求められている。〔表Ⅱ-1-5-1、図Ⅱ-1-5-1〕

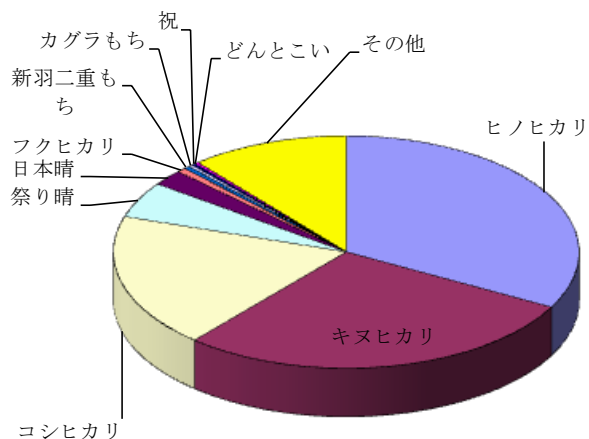
表Ⅱ-1-5-1 水稻 主要品種の作付状況

(単位：ha)

品 種	作 付 面 積
ヒ ノ ヒ カ リ	428.6
キ ヌ ヒ カ リ	370.2
コ シ ヒ カ リ	243.0
祭 り 晴	65.4
日 本 晴	28.8
フ ク ヒ カ リ	8.1
新 羽 二 重 も ち	5.2
カ グ ラ も ち	4.0
祝	3.4
ど ん と こ い	3.2
そ の 他	143.6
合 計	1,303.5

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-1 水稻主要品種の作付状況



資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

◆ 野菜

野菜は、市街化区域における農業経営の中心を占めている。長い歴史と伝統の中で、「京野菜」として結実し、現在に継承されている。作付面積上位については、たけのこを筆頭に、ねぎ、キャベツ、ほうれんそうが100haを超えており、京都市内全体では1,491.3haである。〔表Ⅱ-1-5-2、図Ⅱ-1-5-2〕

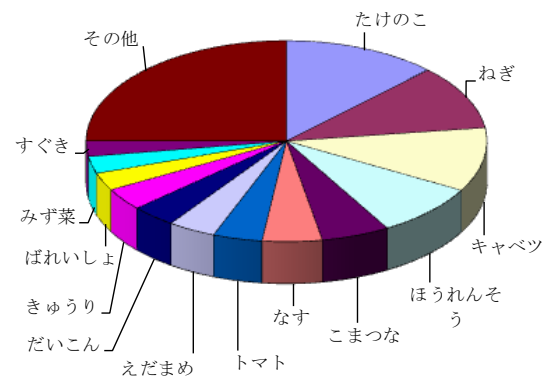
表Ⅱ-1-5-2 普通野菜の作付状況

(単位：ha)

品 目	作 付 面 積
た け の こ	185.9
ね ぎ	155.3
キ ャ ベ ツ	153.1
ほ う れ ん そ う	126.5
こ ま つ な	82.0
な す	72.0
ト マ ト	59.1
え だ ま め	57.4
だ い こ ん	53.9
き ゆ う り	53.2
ば れ い し よ	42.3
み ず 菜	41.0
す ぐ き	37.1
そ の 他	372.5
合 計	1,491.3

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-2 普通野菜の作付状況



資料：京都市産業観光局「平成23年京都市農林統計資料」

◆ 花き

京都市は、生け花の発祥地として古くから花の文化の中心地であり、市民の花きに対する関心は非常に高い。生産についても古い歴史を持っているが、生産量は需要を大きく下回っている。

主な産地と品目は、越畑のオミナエシ等盆花、大原野、向島、静原の花壇苗、桃山の切花などである。

〔表Ⅱ-1-5-3、図Ⅱ-1-5-3〕

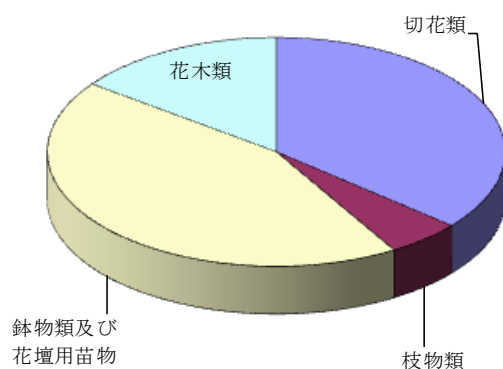
表Ⅱ-1-5-3 花き栽培の状況

(単位：a)

品 目	作 付 面 積
切 花 類	541
枝 物 類	79
鉢物類及び花壇用苗物	654
花 木 類	223
合 計	1,497

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-3 花き栽培の状況



資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

◆ 果樹

果樹生産は、かき、ぶどう、ゆずが中心で、市場出荷は少なく、主に直売、観光農業として経営が行われている。〔表Ⅱ-1-5-4、図Ⅱ-1-5-4〕

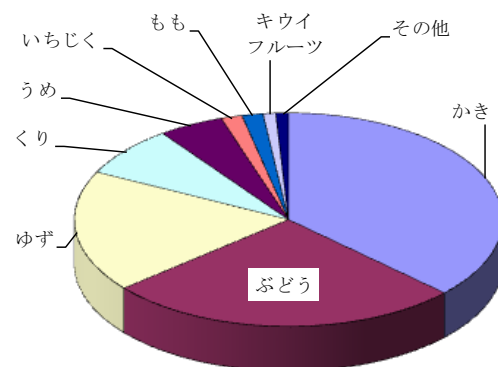
表Ⅱ-1-5-4 果樹栽培の状況

(単位：ha)

品 目	栽 培 面 積
か き	23.3
ぶ ど う	16.9
ゆ ず	11.6
く り	4.8
う め	3.1
い ち じ く	1.0
も も	1.0
キ ウ イ フ ル ー ツ	0.6
そ の 他	0.6
合 計	62.9

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-4 果樹栽培の状況



資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

◆ 木材

京都市では、磨丸太用のスギ、柱や桁等の原木と
いった一般用材となるスギ、ヒノキ、マツ、そして、
家具材やパルプ材等となる広葉樹と、使用目的によ
り様々な素材が生産されている。〔表Ⅱ－1－5－5、
図Ⅱ－1－5－5〕

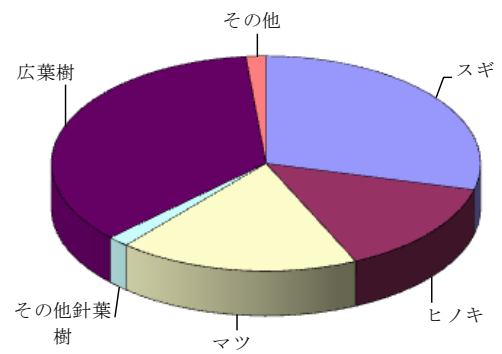
表Ⅱ－1－5－5 林地・樹種別面積の状況（民有林）

（単位：ha）

樹 種 別		面 積
針 葉 樹	ス ギ	17,151.35
	ヒ ノ キ	8,411.83
	マ ツ	10,732.33
	そ の 他	954.66
	計	37,250.17
広 葉 樹		21,097.07
そ の 他		889.80
合 計		59,237.04

資料：京都市産業観光局「平成23年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ－1－5－5 林地・樹種面積の状況



資料：京都市産業観光局「平成23年京都市農林統計資料」